

日本地域学会ニューズレター

平成 22 年 no.1

平成 22 年 1 月 31 日

目 次

| | | | | |
|---|-----|----|-----|----|
| I. 会長挨拶 | ... | 2 | | |
| II. 総会報告 | ... | 2 | | |
| 広島大学で開催された日本地域学会総会についての報告 | | | | |
| III. 理事会報告 | ... | 3 | | |
| 平成 21 年度第 5～9 回理事会 | | | | |
| IV. 委員会報告 | ... | 5 | | |
| 1. 優秀発表賞選考委員会報告 | | | | |
| 2. 日本地域学会学会賞優秀発表賞授賞者 | | | | |
| 3. 編集委員会報告 | | | | |
| 機関誌編集委員会 第 25～27 回の報告 | | | | |
| V. 会費納入のお願い | ... | 6 | | |
| 平成 22 年度会費請求額, 会費早期納入の特典, Web 会員について | | | | |
| VI. 第 47 回日本地域学会年次大会 (平成 22 年 10 月 9-11 日) のご案内 | ... | 7 | | |
| 論文報告の募集, シンポジウムについて | | | | |
| VII. PRSCO Summer Institute, 2010 のご案内 | ... | 8 | | |
| VIII. 学会賞授賞候補者 推薦の募集 | ... | 9 | | |
| IX. 会員通信 | ... | 10 | | |
| <国際会議報告> | | | | |
| PRSCO2009 に参加して (豊橋技術科学大学・渋澤准教授, 東京大学・木南教授) | | | | |
| <海外滞在記> | | | | |
| ゆっくりでもなくのんびりでもなく; 豪州クイーンズランド大学での観光研究 (中央大学・藪田教授) | | | | |
| X. 会員の移動 | ... | 12 | | |
| 『地域学研究』バックナンバー申込書 | | | ... | 14 |
| 正会員入会申込書 | | | ... | 15 |

I. 会長挨拶

平成 22 年 1 月 1 日
日本地域学会
会長 多和田 眞

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日本地域学会の活動も、会員の皆様方のご協力のもとに年々、活発になってきております。加えて、学問研究の分野における地域学研究は近年ますますその存在意義を高めてきています。たとえば大学学部や大学院における教科目の中に地域経済論、地域文化論、産業クラスター論、地域科学など地域関連の科目が以前にもまして多くの大学で取り入れられるようになってきていますし、また地域学関連の学部や大学院の設置も増えてきているように思います。実際、私の専門分野である国際貿易論も地域経済論との密接な関連を抜きにしては成り立たなくなってきました。

世界の動向として、グローバル化が進むに従って、地域間の交流や連携、競争が激しくなるため、それぞれの地域はアイデンティティや独自性、優位となる特色を持たないと埋没し、取り残されてしまいかねません。このような状況においてはかつて国レベルで考えられていた様々な問題は地域や地域間のレベルで捉えていく必要があります。地域学研究の重要性は今後、ますます様々な分野で認識されていくものと思われます。

地域学のこのような重要な局面において、日本地域学会が研究交流や情報交換、研究報告の場として、会員の皆様の研究のために大いに活用されることを切に願っております。日本地域学会は経済学、社会学、経営学、環境学、開発論、など様々な分野の会員から成り立っており、異分野の会員同士の活発な交流によって、新しい研究課題や学問領域にチャレンジする絶好の場です。様々な立場の異なる研究者同士の交流によって今までにない発想やアイデアを生み出し、優れた研究成果を出していただくことを願っています。

日本地域学会は昭和 37 年 6 月に創立されました。従いまして創立 50 周年を来年（平成 23 年）に迎えます。本年はそのため創立 50 周年を祝うための様々な企画を準備していきたいと考えています。役

員、理事の方々はもとより、会員の皆様には絶大な御協力を承りたく、この場をお借りしてお願い申し上げます。また日本地域学会はこれまでも国際地域学会 (RSAI) の発展に様々な形で大きな貢献をしてきましたが、日本地域学会と環太平洋地域学大会機構 (PRSCO) の両事務局長を務めておられる筑波大学の氷鮑揚四郎先生が本年から RSAI の副会長を務められることになりました。氷鮑先生はそのあと 2011 年から 2 年間、RSAI の会長に就任の御予定となっています。日本地域学会の発展にとって大変喜ばしいことであり、氷鮑先生には心よりお祝い申し上げます。(過去には河野博忠先生が 1999 年から 2000 年にかけて RSAI の会長を務められました。) 従いまして、世界地域学会における日本地域学会の果たすべき役割はますます重大かつ重要になってきています。本年も世界各地で行われている地域学関連の国際会議についての情報発信をニューズレター等で行ってまいりますので、会員の皆様には国内のみならず海外での研究報告や研究交流を積極的に行っていただくようお願いいたします。

以上簡単ではありますが、皆様への新年のご挨拶とさせていただきます。

(了)

II. 総会報告

平成 21 年度総会が、去る平成 21 年 10 月 11 日 13:00 より、年次大会の会場である広島大学東広島キャンパス (257 講義室) で開催されました。まず、はじめに多和田会長 (名古屋大学教授) 挨拶の後、外国からの来賓代表として、Prof. Dr. Peter Nijkamp 氏よりご挨拶頂きました。この後、多和田会長を議長として審議と報告が行われました。つづく学会賞授与式では、酒井泰弘委員長より経過報告の後、多和田会長より受賞者に各賞が授与され、総会は無事閉会しました。当日の次第、審議及び報告の内容は以下の通りです。

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶 Prof. Dr. Peter Nijkamp (元 RSAI 会長, Free 大学教授)
4. 議題

1) 新入会員・退会希望者の承認

この件について氷鉋総務担当常任理事より新入正会員 60 名, 退会正会員 57 名, 法人会員 1 団体について報告があり, これを承認。

2) 名誉会員の承認

この件について白井名誉会員推薦委員長より, 故熊田禎宣教授, 酒井泰弘教授, 太田浩教授, 原勲教授が推薦され, これを承認。

3) 平成 20 年度の事業報告の承認

4) 平成 21 年度の事業計画の承認

5) 平成 22 年度の事業計画の承認

この件について渋澤庶務担当常任理事より, 事業報告及び事業計画の報告があり, これを承認

6) 平成 20 年度の収支決算の承認

7) 平成 21 年度の収支予算の承認

8) 平成 22 年度の収支予算の承認

この件について加賀屋理事より報告があり, 筒井監事より適正に処理されていることが報告され, これを承認。

9) 第 47 回 (2010 年) 年次大会の開催地, 開催校等の承認

この件について氷鉋総務担当常任理事より, 政策研究大学院大学で行うことが報告され, これを承認。

10) 第 48 回 (2011 年) 年次大会の開催地, 開催校等の取り扱いの承認

この件について氷鉋総務担当常任理事より, 西日本で候補を選定中であることが報告され, 今後の取り扱いについては事務局に一任することを承認。

11) 日本地域学会学会賞学位論文賞の件

この件について酒井学会賞選考委員長より, 修士論文賞の呼称 (熊田禎宣賞) を定める規程について報告があり, これを承認。

12) その他

5. 報告事項

1) 『地域学研究 (39 巻)』の編集

多和田編集委員長より, 編集経過について報告があり, これを諒承。

2) 日本地域学会機関誌の配布に関する規程の件

多和田編集委員長より, 機関誌の配布に関する規程について報告があり, これを諒承。

3) RSAI の動向

4) PRSCO の動向

5) その他

6. 学会賞授与式

1) 選考経過報告

2) 学会賞授与

3) 受賞者挨拶

7. その他

8. 閉会の辞

III. 理事会報告

平成 21 年度 日本地域学会 第 5 回理事会 (持回り)

日時: 平成 21 年 8 月 18 日 (火) 17:00

議題

1. 「日本地域学会機関誌の配布に関する規程」制定の件

上記規程を制定する件につき審議に付し, 承認が得られた。

平成 21 年度 日本地域学会 第 6 回理事会

日時: 平成 21 年 10 月 10 日 (土) 10:30-11:30

場所: 広島大学東広島キャンパス 法学部・経済学部棟 3 階大会議室

出席者: 多和田, 加賀屋, 氷鉋, 渋澤, 白井, 岡村, 木南, 河野, 酒井, 戸田, 富川, 中山, 萩原, 原, 福井, 藤岡, 光多, 三友, 宮田の各理事 (ただし, 浅見, 近藤, 斉藤, 松本, 三橋の各理事より委任状付託); オブザーバとして筒井監事; 内田, 木南章, 小林, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降, 申し込みのあった 18 名の正会員 (個人会員) の入会と, 6 名の正会員 (個人会員) の退会希望を審議し, 次回総会に諮る事を諒承。

2. 平成 21 年度第 46 回年次大会の運営

これに関して戸田大会実行委員長と氷鉋総務担当常任理事より, プログラムの変更と優秀発表賞の審査及び総会次第について説明があり, これを諒承。

3. 名誉会員推薦委員会の件

白井名誉会員推薦委員長より, 同委員会として太田浩会員と原勲会員を名誉会員に推薦する旨説明があり, 審議の結果, これを諒承。

4. 平成 22 年度の収支予算の承認

氷鉋総務担当常任理事より、総会において今年度より事業報告及び事業計画の承認を行うことに伴い、それに合わせて平成 22 年度分の収支予算の承認を行う為、平成 22 年度予算を立てる旨の説明及び平成 22 年度の収支予算について説明があり、これを諒承。

5. 年次大会次期開催地・開催校

氷鉋総務担当常任理事より、次回は政策研究大学院大学(実行委員長福井秀夫政策研究大学院大学教授)において実施する予定である旨説明があり、これを諒承。

6. 年次大会次々期開催地・開催校

氷鉋総務担当常任理事より、西日本で検討中であることが報告され、今後のこの取扱については事務局に一任することを諒承。

7. その他

氷鉋総務担当常任理事より、2011 年は本学会創立 50 周年にあたるため、特別企画を検討中であることが報告され、これを諒承。

報告事項

1. 『地域学研究』第 39 巻の編集
2. 平成 21 年度第 4 回理事会(持ち回り)
3. 平成 21 年度第 5 回理事会(持ち回り)
4. RSAI の動向
5. PRSCO の動向
6. その他

平成 21 年度 日本地域学会 第 7 回理事会(持回り)

日時: 平成 21 年 11 月 19 日(木) 17:00

議題

1. 創建 CSR セミナー「新たな局面を迎える自治体経営 ～サンディ・スプリングス市の成功事例を基に考える～」の後援名義使用の件

上記後援名義使用を許可する件につき審議に付し、承認が得られた。

平成 21 年度 日本地域学会 第 8 回理事会

日時: 平成 21 年 12 月 20 日(日) 13:00-15:00

場所: 学術総合センター 会議室

出席者: 多和田, 細江, 加賀屋, 氷鉋, 渋澤, 白井, 木南, 河野, 酒井, 高橋, 戸田, 中山, 萩原, 原, 藤岡, 松本, 光多, 宮田の各理事(ただし, 有吉, 浅見, 近藤, 齊藤,

三橋, 三友の各理事より委任状付託); 筒井監事; 鐘ヶ江学術委員会副委員長; 内田, 木南章, 小林, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書
議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降、申込のあった 10 名の正会員(個人会員)の入会希望を審議し、総会に諮る事を諒承。

2. 第 46 回(2009 年)年次大会会計報告

これに関して戸田大会実行委員長より会計報告があり、これを諒承。

3. 日本地域学会創立 50 周年記念事業準備委員会の設置

これに関して氷鉋総務担当常任理事より創立 50 周年記念事業の概要について説明があり、準備委員会の構成については事務局に一任することを諒承。

4. 第 47 回(2010 年)年次大会準備委員会の構成

これに関して福井大会準備委員長が欠席のため、氷鉋総務担当常任理事より年次大会準備委員会の構成について提案があり、これを諒承。

5. 第 47 回(2010 年)年次大会の並行セッション及びシンポジムの編成

これに関して氷鉋総務担当常任理事より年次大会の並行セッション名の提案とシンポジウムの企画について説明があり、これを諒承。

6. 学会賞優秀発表賞

これに関して酒井学会賞選考委員長より受賞者の報告があり、表彰式は総会にて実施する旨説明があり、これを諒承。

7. 名誉会員推薦委員会の件

これに関して白井名誉会員推薦委員長より David Boyce 会員と Lay J. Gibson 会員を名誉会員として推薦する旨説明があり、審議の結果、総会に諮る事を諒承。

8. 『地域学研究』セット販売の推進

これに関して氷鉋総務担当常任理事よりセット販売について各所属機関等での購入検討の依頼があり、これを諒承。

9. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

これに関して氷鉋総務担当常任理事より引き続き新入会員勧誘キャンペーンを推進する旨の説明があり、これを諒承。

10. その他

1) 論説賞

氷鉋総務担当常任理事より学会賞として論説賞を新たに設ける件について提案があり、今後の取り扱いについては学会賞選考委員会で検討することで、これを諒承。

2) 機関誌規程の変更について

氷鉋総務担当常任理事より機関誌の定期刊行を円滑に行うため、校正等のレスポンスが遅れた場合の取り扱いについて規程を変更することを検討する旨説明があり、これを諒承。

3) 後援シンポジウムの開催報告

筒井監事より、本学会が後援し平成 21 年 9 月 15 日に開催された COP10 パートナースhip事業「流域環境圏を基にこの国の形を創る」シンポジウムに関して報告があった。

4) シンポジウムの共催依頼

筒井監事より、平成 22 年 2 月 14 日開催予定の COP10 パートナースhip事業「-コラージュ&フォーラム- 流域環境圏を基にこの国の形を創る ～第 2 回 道州制のあり方を流域から考える～」のシンポジウム共催の依頼について説明があり、具体案がまとまった段階で持ち回り理事会を開催することを諒承。

報告事項

1. 『地域学研究』第 40 巻の編集

多和田編集委員長より編集状況について、氷鉋総務担当常任理事からは同誌の印刷事業者の入札結果について報告が行われた。

2. 平成 21 年度第 7 回理事会 (持ち回り) の件

氷鉋総務担当常任理事より、創建 CSR セミナー「新たな局面を迎える自治体経営 ～サンディ・スプリングス市の成功事例を基に考える～」の後援名義使用の件について承認された旨の報告が行われた。

3. RSAI の動向

4. PRSCO の動向

5. その他

河野理事より、RSAI の動向と PRSCO の動向については、今後大会の日程等を理事会配布資料に明記する旨提案がされた。

平成 21 年度 日本地域学会 第 9 回理事会 (持ち回り)

日時: 平成 21 年 12 月 25 日 (金) 17:00

議題

1. 国土交通省国土計画局「国土形成計画 (全国計画) のモニタリングにおける意識調査」への協力
上記について、本学会のホームページ (以下 HP) 上で同調査サイトへのリンクを貼り協力をする件につき審議し、承認が得られた。

IV. 委員会報告

1. 優秀発表賞選考委員会報告

平成 21 年度 日本地域学会学会賞 第 1 回優秀発表賞選考委員会

日時: 平成 21 年 11 月 1 日 (日) 13:00-15:30

場所: 東京大学農学部 1 号館 3 階 324 号室

出席者: 酒井, 河野, 渋澤, 多和田, 萩原, 三友の各委員 (ただし、有吉, 岡村, 加賀屋, 氷鉋の各委員より委任状付託); 内田, 木南章, 小林, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1) 第 46 回 (2009 年) 年次大会 第 2 回優秀発表賞選考の件

座長評価に基づき、優秀発表賞授賞候補者の選考が行われた。また、優秀発表賞選考委員会委員による候補者の発表論文レジュメの査読評価に基づき、最優秀発表賞授賞候補者の選考を行うことを諒承した。

2) その他

平成 21 年度 日本地域学会学会賞 第 2 回優秀発表賞選考委員会 (持ち回り)

日時: 平成 21 年 12 月 18 日 (金) 17:00

議題

1) 平成 21 年度日本地域学会最優秀発表賞の選考

採点表の最高得点者である小川健氏に平成 21 年度日本地域学会最優秀発表賞を授賞する件につき審議に付し、承認が得られた。

2. 日本地域学会優秀発表賞授賞者

第 2 回優秀発表賞選考委員会の審議及び第 8 回理事会の議を経て、第 18 回日本地域学会学会賞 最優秀発表賞及び優秀発表賞授賞者が以下の通り決定致

しました。なお、表彰式は平成 22 年度日本地域学会
総会(平成 22 年 10 月)において執り行われます。
最優秀発表賞

小川 健(名古屋大学)「結合生産と特化パターン」
優秀発表賞

植野 甲史郎(筑波大学)「水環境汚染・地球温暖
化の視点からみた窒素循環のあり方に関する研究」

宇佐美 沙織(北海道大学)「GIS を用いた震災時
における帰宅意思と帰宅可能率の予測評価に関する
研究」

Yue XIA(筑波大学)“Water Resource Endow-
ment and Location Choice of Japanese Textile In-
dustry FDI in China”

菅原 喬史(豊橋技術科学大学)「技術革新によ
る次世代型自動車出現がもたらす経済波及効果の
分析」

Indrawan PERMANA(豊橋技術科学大学)“Anal-
ysis of Illegal Settlements in Flood Prone Areas in
Central Kalimantan Province, Indonesia: A Two
Dimensional Spatial Modeling”

3. 編集委員会報告

日本地域学会 第 25 回機関誌編集委員会

日時: 平成 21 年 9 月 5 日(土) 13:30-15:00

場所: 学術総合センター 会議室

出席者: 多和田, 松本, 氷鮑, 有吉, 加賀屋, 木谷, 木
南, 実積, 渋澤, 高橋, 光多, 三友の各編集委員(ただ
し斎藤, 原の各委員より委任状付託); 内田, 木南章,
櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書
議題

1) 『地域学研究』第 39 巻掲載候補論文の選考
レフェリー評価に基づき第 39 巻の掲載論文の選
考が行われた。

2) 同上機関誌印刷方針
第 39 巻の発行計画および印刷状況について, 氷鮑
総務担当常任理事・編集総務より報告があった。

3) 同上機関誌書評応募図書の取扱い

4) その他

日本地域学会 第 26 回機関誌編集委員会

日時: 平成 21 年 11 月 1 日(日) 11:00-12:30

場所: 東京大学農学部 1 号館 324 会議室

出席者: 多和田, 松本, 木南, 渋澤, 藤岡, 光多, 三友の
各編集委員(ただし有吉, 加賀屋, 木谷, 実積, 高橋,
原, 氷鮑, 戸田の各委員より委任状付託); 内田, 木南
章, 小林, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書
議題

1. 『地域学研究』第 39 巻掲載候補論文の選考
レフェリー評価に基づき, 第 39 巻の掲載論文の選
考が行われた。

2. 同上機関誌印刷方針
第 39 巻の発行計画および印刷状況について, 坂田
事務局秘書より報告があった。

3. 同上機関誌書評応募図書の取扱い

4. その他

日本地域学会 第 27 回機関誌編集委員会

日時: 平成 21 年 12 月 20 日(日) 10:30-12:30

場所: 学術総合センター 会議室

出席者: 多和田, 松本, 氷鮑, 加賀屋, 木南, 渋澤, 高
橋, 原, 藤岡, 光多, 戸田の各編集委員(ただし有吉,
実積, 三友の各委員より委任状付託); 内田, 木南章,
小林, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書
議題

1. 『地域学研究』第 40 巻掲載候補論文の選考
レフェリー評価に基づき, 第 40 巻の掲載論文の選
考が行われた。

2. 同上機関誌印刷方針
第 39 巻・第 40 巻の発行計画および印刷状況につ
いて, 坂田事務局秘書より報告があった。

3. 同上機関誌書評応募図書の取扱い

4. その他

V. 会費納入のお願い

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会

会長 多和田 眞

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のことと
お喜び申し上げます。

さて, 早速ですが, 同封致しました請求書の通り,
日本地域学会平成 22 年度会費をご請求申し上げま
すので,

納入期限 平成 22 年 3 月末日

までに同封の振込用紙にてお支払いいただけます様
お願い申し上げます。

なお、預金口座引落としの手続きを平成22年3月20
日までに完了された方には、平成22年6月28日に
請求内容にしたがって引落としを行いますのでお早め
に手続きをおとり下さる様お奨め致します。また、
学生会員年会費の適用には学生証(写し)の提出が
必要ですので、faxか封書にて学会事務局までお送り
下さい。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが、事務
処理の円滑化及び再度にわたる督促の経費節減、さ
らに予想されます不安傾向の為替リスク回避のため
上記期限までの早期納入にご協力頂けますよう、重
ねてお願い申し上げます。 敬具

1. 平成22年度日本地域学会会費等(適用期間限定)

1) 平成22年度(平成22年4月1日-平成23年3月 31日)

一般会員年会費 10,000円

学生会員年会費 7,000円

2) *Papers in Regional Science*を印刷された形での 購読希望の方の追加料金

一般会員 7,000円

学生会員 3,000円

但し、これらの会費、購読料が適用されるのは、

a) 納入期限(平成22年3月末日)までに上記会費
を納入された日本地域学会 会員の方、

b) 平成22年3月20日までに預金口座引落としの
手続きを完了された日本地域学会 会員の方、または、

c) 4月以降に校費(公費)から支出する事を希望
し、納入期限(平成22年3月末日)までにその旨、お
よび支払予定日を事務局に申し出た日本地域学会
会員の方に限りますのでご注意ください。

2. 会費の期限内納入の特典

外国為替市場の成り行きが不透明な事もあり、上
記の金額で期限を遅れてRSAI会費をご納入いた
いても、著しく為替差損を生じ、これを日本地域学会
の一般会計が負担しなければならない危険が見込ま
れます。

日本地域学会では、この様な事を考慮して、上記納
入期限に遅れた場合には、

1) 一般会員年会費として11,000円を請求する

2) 学生会員年会費として8,000円を請求する

3) *Papers in Regional Science*を印刷物として購読
希望の追加料金を一般会員は8,000円を請求する

4) 上記 学生会員は4,000円を請求する

という事を理事会で決定致しております。この主旨
をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経
費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねて
お願い申し上げます。

3. Web 会員

本学会機関誌『地域学研究』の電子ジャーナル
を、J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システ
ム)により発行しております。これにより、会員の
研究成果が広く世界に向けて情報発信されていま
す。Web 会員に登録されますと、最新の論文が電子
ジャーナル(本文PDF)として閲覧可能となります。
Web 会員登録を希望される方は、学会 HP から、電
子ジャーナル『地域学研究』個人購読者認証申込書
(Web 個人会員)をダウンロードしていただき、これ
にご記入の上、事務局までお申し込みください。

Web 会員価格(平成22年4月1日-平成23年3
月31日)は以下ようになります。

1) 正会員である個人(Web 個人会員 A) 年会費 2,000
円

2) 非会員である個人(Web 個人会員 B)* 年会費
5,000円

3) 法人会員である団体もしくは機関(Web 機関会
員 A) 年会費 10,000円

4) 非法人会員である団体もしくは機関(Web 機関
会員 B)* 年会費 40,000円

* Web 個人会員 B と Web 機関会員 B は、電子ジャー
ナル閲覧のみのサービスとなります。

VI. 第47回日本地域学会年次大会

(平成22年10月9(土)-10日(月))

論文報告の募集

平成22年度(2010年)日本地域学会第47回年次
大会は、政策研究大学院大学において下記の通り開
催されます。

会員諸賢におかれましては、論文報告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さい。

記

開催日：平成 22 年 10 月 9 日 (土)–11 日 (月)

開催校：政策研究大学院大学

会場：政策研究大学院大学 〒106-8677 東京都港区六本木 7-22-1

大会準備委員会 委員長：福井 秀夫 (政策研究大学院大学 教授)

セッション：

・共通論題：

- (a) 地域経済・地域雇用
- (b) 産業集積・情報
- (c) 環境評価・環境政策
- (d) 地域環境・地球環境
- (e) 国際経済政策
- (f) 交通・コミュニケーション
- (g) 経済分析・モデル分析
- (h) 意識分析・行動分析
- (i) 地方分権・地方財政・道州制
- (j) 持続可能都市・地域システム
- (k) 都市再生・地域再生
- (l) 沿岸域管理・海洋政策
- (m) ツーリズム
- (n) アジア経済

・一般論題：立地、人口移動、地域経済等の地域学一般の課題すべて

(公開) シンポジウム

テーマ：自治体独自の立法権、課税権、司法権をどこまで認めるか—地方分権の原理的考察 (仮題)

以上

論文報告・特別セッション編成の募集

論文報告と特別セッションの編成を希望される方は、下記の事項を明記し、日本地域学会事務局へ e-mail, fax または封書等で応募して下さい。応募締切は平成 22 年 5 月 31 日です。なお、専用の応募用紙を利用される場合は、学会 HP からダウンロードできます。

[論文報告] 応募の必要事項

1. 論文タイトル
2. 上記が和文の場合には、同英文訳
3. 著者名、所属 (複数の場合には、発表者を明記)
4. 同上英文表記
5. Abstract: 和文 (700 字以内) 及び英文 (200 words 以内) の双方を提出
6. 対応責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等
7. 希望討論者 2 名 (会員に限る; 必ずしも希望通りとならないことをあらかじめご承知おき下さい)

[特別セッション編成] 応募の必要事項

1. セッションタイトル及びセッションの意図、内容等の概要 (和文 300 字以内、英文 100words 以内)
2. 座長 (1-2 名の会員) 氏名、所属、同英文表記
3. 1 セッション当たり 3-4 編の報告を目的に、各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し、討論者は各々の論文について 1 名でも可。
4. 対応責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等

論文報告等に関する問合せ及び応募は、以下の日本地域学会事務局宛にお願いします。

氷鮑 揚四郎 (ひがの ようしろう)

筑波大学大学院生命環境科学研究科教授

〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1

tel, fax: 029-853-7221

メールによる応募: app@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp

メールによる問合せ: sec@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp

応募用紙の入手: http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/index_jap.html

年次大会の参加申込み

大会及び懇親会の参加申込み方法は、次号のニューズレター及び学会 HP にて公表する予定です。

学会 HP: http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/index_jap.html

VII. PRSCO Summer Institute 2010

第 11 回 PRSCO Summer Institute 2010

論文報告の募集

第11回 PRSCO Summer Institute (11th Pacific Regional Science Conference Organization (PRSCO) Summer Institute 2010) が、コロンビアにおいて開催されます。PRSCO は日本地域学会がメインとする国際会議であります。最先端、最新の研究成果を発表する場として、有効活用していただけます。会員諸賢におかれましては奮ってご参加ください。大会 HP や日程等の情報については、後日、日本地域学会 HP に掲載する予定です。

以上

VIII. 学会賞授賞候補者 推薦の募集

日本地域学会では、地域学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為、日本地域学会学会賞を毎年授与しています。

今年度も第19回日本地域学会 学会賞授賞者選考候補者の推薦の募集を行いますので、どうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞: 地域学の進歩及び学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞: すぐれた研究論文によって地域学の発展に著しく寄与し、研究業績の意義や貢献が多大である会員を表彰する。

奨励賞: 若手研究者ですぐれた研究論文を発表した会員を表彰する。

著作賞: 地域学の発展に著しく寄与し、その意義や貢献が多大である著作物を表彰する。

学位論文賞: 本学会会員である博士または修士課程修了者がその修了要件として提出したすぐれた学位論文を表彰する。

優秀発表賞: 年次大会において優れた論文発表を行った会員に優秀発表賞を授与する。このうち最も優秀な論文発表を行った会員には最優秀発表賞を授与する。

功績賞・論文賞・奨励賞及び最優秀発表賞受賞者には賞状とメダルが、著作賞・学位論文賞及び優秀発表賞受賞者には賞状が授与されます。

第19回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦 応募要領

◇応募期限

1) 功績賞・論文賞・奨励賞・著作賞・学位論文賞: 平成22年4月9日(金)(事務局必着)

2) 優秀発表賞: 平成22年5月31日(日)(年次大会発表申し込みと同時,事務局必着)

◇応募方法: 功績賞への応募は他薦のみ、優秀発表賞への応募は自薦のみですが、その他への応募は自薦、他薦を問いません。所定の応募用紙を事務局に提出して下さい。

◇推薦資格: 推薦者は、日本地域学会会員であることが必要です。

◇受賞資格等

1) 論文賞及び奨励賞の表彰対象となる研究業績は、過去2年間(暦年)に発表したもので、その主たるものが本学会関連誌『地域学研究 (*Studies in Regional Science*)』及び *Papers in Regional Science of the RSAI* に掲載されている論文であることが条件です。

2) 奨励賞の応募については、年令がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時35才未満であった事が必要です。

3) 著作賞の表彰対象となる著作物については、過去2年以内出版もしくは公表された研究図書であることが条件です。

4) 学位論文賞については、表彰の時点において修了後3年以内のもので、当該学位論文に関連した学術論文を本学会の学術セッションで発表を行っているか、または本学会機関誌『地域学研究』あるいはこれに準ずる専門誌に掲載または掲載可として受理されていることが条件となります。なお、年齢による制限はありません。

5) 優秀発表賞については、以下のいずれかである必要があります。(a) 授賞対象となる論文発表の年度末において30歳以下である会員、(b) 授賞対象となる論文発表時において大学院に在籍する会員、(c) 年次大会の Early-bird Session(アーリーバード・セッション)で発表する会員であり、理事会がその表彰を適当と認めた会員。さらにいずれの場合も、対象となる論文の第一著者であり、かつ年次大会当日に口頭発表を行う本人である必要があります。

◇選考方法: 「日本地域学会 学会賞(奨励賞・論文賞・功績賞)に関する規程」, 「日本地域学会著作賞に関する規程」, 「日本地域学会学会賞学位論文賞規程」, 「日本地域学会学会賞優秀発表賞規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第, 受賞者には連絡します。

◇授賞式: 第46回年次大会における総会(平成21年10月10日(土)広島大学)にてとりおこないます。優秀発表賞については, 年次大会後の理事会でとりおこないます。

◇応募用紙の請求: 日本地域学会事務局まで賞の種類を明記してご請求下さい。優秀発表賞については, 年次大会発表申込用紙中に応募欄があります。

IX. 会員通信

<国際会議報告>

21st Conference for the Pacific Regional Science Conference Organization (PRSCO2009)に参加して

豊橋技術科学大学人文・社会工学系
准教授 渋澤 博幸
東京大学大学院農学生命科学研究科
教授 木南 章

平成21年7月19日から22日まで, オーストラリアのゴールドコーストで, 第21回環太平洋地域学大会機構(PRSCO)の国際会議が開催された。今回の大会のテーマは, “Global Challenges-Regional Responses”であった。ゴールドコーストの中でも一際目立つConrad Jupitersホテルに世界各国から地域科学の研究者が集まり, 活発な議論が行われた。新型インフルエンザの感染が心配された時期にもかかわらず, 日本からはオーストラリア国内の参加者を上回るほど多くの方が参加された。

大会初日のオープニングセレモニーでは, 本大会のChairman及びThe Australia and New Zealand Regional Science Association International (ANZRS-IAI)の会長であるDavid Fuller教授より開会の挨拶があり, その後Scott Baum教授より, “The Financial Crisis and changing Regional Vulnerability”と題して講演が行われた。

パラレルセッションは3日間続いた。基調演説として, John Quigley教授が“The Housing Crisis”と題して, Antoine Bailly教授が“An Epistemology of Regional Science”と題して, Blair Comely氏が“Economics of Climate Change”と題して, そしてGeoffrey Hewings教授が“Regional Science and Policy”と題して講演を行った。また, “Regional Science: Where Do Theory and Practice Meet? International Perspectives”と題するPlenary Sessionが開かれたが, 地域科学と実務との相互関係を強く意識している点が印象的であった。この他, 各参加者より報告された論文数は約130本であった。地域科学の国際会議の中でもPRSCO大会は, アジア地域を含む環太平洋エリアという地域特性から, 様々な地域を対象として理論分析から実証分析まで, 多様なテーマが取り上げられているのが特徴といえよう。大会の運営は極めて円滑であると同時に, 終始温かい雰囲気にも包まれたものであった。ディナーやエクスカージョンでは, 多くの参加者がリバークルーズやゴールドコーストで一番高い(居住ビルとしては世界で一番高い)ビルディングQ1からの夜景を楽しむことができた。

ゴールドコーストの風景

<海外滞在記>

ゆっくりでもなくのんびりでもなく; 豪州クイーンズランド大学での観光研究

中央大学経済学部教授
(クイーンズランド大学客員教授)
藪田 雅弘

Good day Mate!(グッダイマイト)。最初はダイナマイトかと思いましたが, 挨拶であることを知っ

て一安心。在外研究のチャンスを得て以来、今では好んで使っております。まだまだ理解できないのは、豪州なまりのせいではなく、本来の英語能力の不足に気がついたのも最近で、そんな中、英語力の駆使が必須の観光研究に挑んだのが、その分野ではもっとも進んだ研究が行われ、多くの研究者が研鑽しているクイーンズランド大学法経学部の観光学科でした。観光発展における環境保全の重要性が謳われて久しいのですが、観光と環境の両立を図りながら地域の発展を促す持続可能な観光、あるいはエコツーリズムの発展の方途を環境経済学の立場から探るべく研究を続けております(写真1は The University of Queensland = UQ の St.Lusia キャンパス)。ここは気候が亜熱帯という事もあり、大変明るく温かな人が多いような気がします。UQ では、法経学部にビジネス、経済、法律および観光のスクールが配置されているという稀有な構成になっているため、縦横の連携もあり、観光学科の経済分析領域の研究者との共同研究も行っております。また、博士課程ならびに先生達の報告会が頻繁で、院生を含め、学科の殆どの人と何らかの形で交流がもてていることも合わせです。言語が英語であるという事も手伝って、アジア、特に中国や韓国からの留学生が多いのも特徴です(写真2は、地球温暖化と観光に関する研究会の後の茶話会で。右から報告者の LUND 大学のゲスリング教授、一人おいてボランティア教授。さて私はどこでしょう?)。博士課程の研究会を含め、いつも Tea-break がありお茶お菓子、時には昼食が出されるので、ボランティア教授に予算のことを伺ったら「私が出している」という冗談?が返ってきました。

写真1

観光学科については、キャンパスは本部のある St. Lucia (ブリスベン市内) と電車で1時間程度の距離にある Ipswich(イプスウィッチ市) の二つあります。私が到着した4月には7年に一度の学科の外部監査(研究教育面での監査で世界から数名の関係分野の教授が審査に来訪)があったため、学科長のボランティア教授を始め皆ぴりぴりしておられました。しかし、審査結果の評価が大変高く、努力が報われた結果になったことは良かったと思います。現在キャンパス計画の最中であり St.Lucia の建物は手狭で相部屋も多いと言う事もあって、私自身は Ipswich にある研究室(Lee 講師と相部屋)を利用しています。ただ、やはり St.Lusia 中心で Ipswich には数名の先生方と客員教員がいる形ですので、時には「私だけ」ということがあります。

こちらで特に中心に共同研究を行っているのが、N スコット博士(上級研究員)です。観光ガバナンスでも活躍中の先生で、Network Analysis や Tourism Development のパターン分析に関する共同研究を続けています。これらは討論の中からアイデアを出し纏めるという手法で、今後も継続させていければと考えています。他方、私自身は観光資源に関してコモンプールアプローチを本旨としていますが、同じ UQ の Integrative-Systems 学科で地域コミュニティ発展を研究されている Ross 教授の、同アプローチからのブリスベン川流域管理についての論文を発見した時は驚きでした。冬季の多忙な中無理を言って研究会を開いて頂き、その理論的な分析を軸にその後も継続的に研究会を続けています。在外研究では、人との出会いが財産であると思っております。

写真2

ところで、先生方は、ジャーナルや著作への貢献状況、あるいは外部研究費による研究推進によって評価されており、研究し成果が上がるほど研究費がより多くなる仕組みで、研究員のインセンティブは否が応でも高いものがあります。さらにジャーナルにもランクがあるわけですから、まずこちらに来て感じたのは一種の緊張感です。英論文は当然の事、論文作成をのんびりと構えている場合ではないと、最初はある切迫感を感じたことを覚えています。

ゆっくりでもなく、のんびりとでもないのですが、時間の流れの中で自己を見失うことなく充実した日々を過ごしたいと思います。最後に、大学や学会の皆さまに謝意を表しつつ筆を置きます。

ブリスベンにて 藪田 雅弘 拝

X. 会員の移動

新入会員

正会員 67 名

秋本 耕二 (久留米大学経済学部教授)

荒川 潔 (大妻女子大学社会情報学部専任講師)

飯田 隆雄 (札幌大学経済学部教授)

宇佐美 沙織 (北海道大学大学院公共政策学教育部修士1年)

王 彊 (東北大学経済学研究科博士後期課程)

王 文明 (名古屋大学大学院経済学研究科博士課程)

大須賀 元彦 (愛知学院大学総合政策研究科博士課程後期)

大住 圭介 (九州大学経済学研究院教授)

岡本 健 (北海道大学国際広報メディア・観光学院観光創造専攻博士後期課程)

小川 絢平 (中央大学経済学研究科 国際公共経済専攻学生)

梶原 文男 (政策研究大学院大学教授)

片岡 光彦 (千葉経済大学経済学部准教授)

加藤 優希 (兵庫県立大学応用情報科学研究科博士前期課程)

金子 健 (政策研究大学院大学教授)

木村 明広 (東京大学大学院新領域創成科学研究科学生)

Gibson, Lay James (University of Arizona Geography and Regional Development, Professor)

久保 和華 (宮崎公立大学人文学部准教授)

崔 明姫 (名古屋工業大学創成シミュレーション専攻 院生)

斎藤 徹史 (国立大学財務経営センター研究員)

作山 巧 (農林水産省大臣官房国際部国際交渉官)

佐野 浩一郎 (北海道大学経済学研究科博士課程)

柴田 淳郎 (滋賀大学経済学部特任准教授)

柴田 つばさ (慶應義塾大学 SFC 研究所訪問研究者)

夏 月 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)

朱 浩 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)

進藤 優子 (名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程)

菅原 喬史 (豊橋技術科学大学人文・社会工学系 学生)

関野 伸之 (北海道大学国際広報メディア・観光学院博士後期課程)

谷口 仁士 (立命館大学歴史都市防災研究センター教授)

長命 洋佑 (龍谷大学日本学術振興会特別研究員)

Cholpon, Alibakieva (筑波大学環境科学専攻大学院生)

杜 歆政 (嘉興学院教授)

Dhungana, Bhima (宮崎大学農学部博士課程)

渡久地 由佳 (東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻修士課程)

友田 康信 (京都大学経済研究所学術振興会特別研究員 (PD))

豊田 利久 (広島修道大学経済科学部教授)

豊田 祐輔 (立命館大学大学院政策科学研究科博士課程後期課程)

長山 悦子 (東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻院生)

中山 敬太 (筑波大学生命環境科学研究科学生)

Najib Mukhamad (東京大学大学院農学生命環境科学研究科博士課程)

Nahid, Hossain (豊橋技術科学大学)

野口 絵理 (北海道大学工学研究科学生)

野崎 謙二 (内閣府消費者委員会事務局参事官)

Ha Thi Thu, Trang (豊橋技術科学大学)

橋本 信之 (北海道大学工学研究科学生)

橋本 康男 (広島県総務局国際課課長)

羽山 和慶 (チェルト (株) オペレーションサポート部物流課)

原田 弘子 (広島大学大学院社会科学研究科 (博士課程後期))

日野 明日香

Piya, Sujana (東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程)

Phuc, Nguyen Tien (筑波大学生命環境科学研究科院生)

藤井 正 (鳥取大学地域学部教授)

藤田 昌弘 (大手前大学現代社会学部教授)

Permana, Indrawan (豊橋技術科学大学)

Boyce, David E. (Northwestern University Civil and Environmental Engineering, Professor)

堀江 真由美 (広島経済大学経済学部講師)
 益 慈子 (東京大学大学院新領域創成科学研究科学生)
 水上 象吾 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別
 研究助教)
 水田 哲生 (立命館大学歴史都市防災研究センター PD 研究
 員)
 安江 紘幸 (東北大学大学院農学研究科助教)
 保永 展利 (島根大学生物資源科学部講師)
 楊 荏茜 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)
 吉岡 真史 (長崎大学経済学部教授)
 李 艶 (千葉大学大学院工学研究科博士課程)
 李 紅 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)
 李 楊 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)
 梁 陽 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)

李 因敦
 劉 繼生
 王 徳
 法人会員 1 団体
 日本政策投資銀行 地域振興部

李 鈺
 王 文信
 王 玉蓮

会員数
 個人会員 1,046 名
 法人会員 16 団体

退会会員

正会員 54 名

| | |
|------------------|------------------|
| 安 秉基 | 江島 和廣 |
| 大谷 衣梨香 | 岡部 篤行 |
| 折原 森地 | 金守 隆仁 |
| 川崎 晃央 | 韓 麗華 |
| 北村 隆一 | 金 大淵 |
| 金 柄良 | 金 洪哲 |
| 金 英厦 | 金 英模 |
| 熊田 禎宣 | 小林 誠 |
| 今野 恵喜 | 斎藤 峻彦 |
| 佐藤 馨一 | 佐藤 洋禎 |
| 澤田 廉路 | 七田 知子 |
| 清水 康生 | Schlunze Rolf D. |
| 新谷 正彦 | 関野 伸之 |
| 高木 健 | 竹川 宏子 |
| 明璋 | 張 鍵 |
| 戸松 稔 | 中川 由美 |
| 西 晃 | 西村 和司 |
| 畠山 道子 | 花園 祥子 |
| 平松 登志樹 | 星上 幸良 |
| 松岡 勝博 | 萬浪 善彦 |
| 三輪 玄二郎 | 矢田 俊文 |
| 矢部 浩規 | 行本 勢基 |
| Yordying Supasri | 吉田 大悟 |
| 義永 忠一 | 吉村 伸夫 |